

## 鉄砲洲神社詩吟 素読論語

(平成 27 年 12 月 4 日)

衛霊公 第十五

【四】子曰く、無為にして治まる者は、其れ舜なるか。夫れ何をか為さんや。己を恭しくして、正しく南面するのみ。

「子曰く無為にしておさまるものは」孔子がいうには、何もしないでよく天下が治まる皇帝は舜であろう。「夫れ何をか為さんや」は、何もしないでいて天下が治まる。自分が毎日身を正しくして、悪遊びをしない。謹厳実直で帝位に就いて一生懸命に政をしている。「南面するのみ」は、臣下が色々と言ってくることを真剣に聞いている。臣下が一生懸命に報告をしている時、一生懸命に聞いてくれることは臣下の喜びだったと思います。そんな人間関係が感じられます。

今でみますと、安倍さんの雰囲気ではありません。天皇陛下の前に出ると、こういう雰囲気でしょうか。でも天皇陛下が何もしないとは思えないので、一生懸命やっていることが国民に伝わっている。また外国人の方々も自然と感じ取っているので、前に出ると己を正して、自然と身を引き締める。したがって日本では総理大臣と皇室の間では凄まじい違いの溝があるなど感じます。やはり皇室があつて良かったなという気がします。

【五】子張行われんことを問う。子曰く、言忠信に、行篤敬ならば、蛮貊の邦と雖も行われん。言忠信ならず、行篤敬ならずんば、州里と雖も行われんや。立てば則ち其の前に参るを見、輿に在れば則ち其の衡に倚るを見る。夫れ然る後行われんと。子張諸を紳に書す。

この時の子張は 15 歳だそうです。孔子が 63 歳の時ですから、若者が大先輩に対して「どうしたら自分の主張が世の中に通るのか」ということを、背筋を伸ばして真剣にお聞きしました。孔子は、言葉の中に真心があり、行動自体が軽佻浮薄でなく恭しく慎んで動くようであれば、南方の蛮族、北方の野蛮な国でも、お前の主張は実行されるであろう。言葉

も嘘偽りが多く、行いに真心がこもっていないのであれば、自分の郷里であってもお前の主張は通らないだろう。

まっすぐ正面を見るのが良い。馬車に乗ったら（馬車に横木があって捕まる棒がある）棒に身体をちょっと寄せて、馬車が跳ねた時でも、自分が乱れてとんでもない動きをしないように、しっかり正しく馬車に乗る。そのように背筋を伸ばして威儀を正しておれば、周りの人にお前の言うことは通るものだ。

おじいさん先生が若者に動作態度、言葉づかいをこうしていけば、お前の主張は通るであらうと懇切丁寧に教えている状況です。孔子が若者に具体的に細かく教えてあげている良い雰囲気の状態です。

若者は一生懸命に、大帯の前に垂れたところに書きとめた。「**紳に書す**」は、今で言うと帯にメモを取ったということです。

このようにして論語を、お弟子さん達が帯紐などに書きとめた物を纏めて、一冊の書となりました。

「教育者は字面だけを教えるのではなく、心を教えなさい」と、よく言われていますが、孔子も具体的な挙手動作を教えることと同時に、心を伝えていると感じます。

ちなみに渋澤栄一がこの章を見て、明治天皇の和歌を紹介しています。

「まめやかに 使うる帯のあればこそ われまつりごとを 乱れざりけり」と、紹介しています。